

会 議 録

会 議 の 名 称	所沢市男女共同参画審議会平成30年度第2回会議
開 催 日 時	平成30年10月16日(火) 午後6時から7時20分まで
開 催 場 所	市役所3階301会議室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	
説明者の職・氏名	経営企画部企画総務課男女共同参画室長 酒井 忠夫
議 題	1 議事 (1) 第4次所沢市男女共同参画計画(案)について (2) その他
会 議 資 料	・第4次所沢市男女共同参画計画(案) ・前回の会議録
担 当 部 課 名	経営企画部企画総務課男女共同参画室 電話 04(2998)9150 <出席者> 経営企画部 平田部長、経営企画部 林次長、企画総務課 内野 課長、男女共同参画室 酒井室長、緑川主査、男女共同参画推 進センターふらっと 仲所長、飯塚主任

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
開 会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会長挨拶 ・ 委員の変更について ・ 会議成立の報告 ・ 資料の確認 ・ 傍聴希望者の確認（傍聴人 3 名）
議事（1）第 4 次所沢市男女共同参画計画（案）について	
議長	議事（1）第 4 次所沢市男女共同参画計画（案）について、事務局から説明願いたい。
事務局	※資料に基づき、第 4 次所沢市男女共同参画計画（案）について説明
議長	何か意見、質問等はあるか。
委員	<p>体系図について、基本目標は第 3 次計画の重点目標と同じ意味合いのものか。双方を比較すると第 4 次計画の基本目標の数が少ないが、なくなったものについては重点として扱わなくなったのか。</p> <p>また、目標値はわかりやすくてよいが、第 3 次計画の流れを汲んだ内容となっているのか、それとも新しく作成したのか。</p>
事務局	第 3 次計画の重点目標と第 4 次計画の基本目標は同じ意味合いのものである。数が 6 から 4 に減っているのは、関係所管とのヒアリングなどを踏まえ検討を行い、集約した結果である。また、目標値に関しても、関係所管とのヒアリングや市民意識・実態調査の結果を反映して、現状に即した数値を設定している。
議長	<p>具体的な施策と評価指標は別々に作られており、具体的な施策については庁内の関係部署において別々に管理されている。この計画を進めていく中で我々が当面見ていくのは評価指標であるが、評価指標そのものを市の施策として進めていくのではなく、関連事業を通して評価指標に影響が及ぶという因果関係になっている。そのため、目標値が達成できなかった場合は、具体的な施策に戻って検討を行う。具体的な施策や評価指標については事務局がしっかり進捗状況を把握して計画を運用していってほしい。</p> <p>今回審議会としては、特に計画の記載に不足や疑問点などがないかという部分について確認していきたい。</p>

事務局	前回の審議会で、基本目標Ⅰ、基本施策１、具体的な施策（４）「性的マイノリティへの理解促進」の記載について、マイノリティ（少数者）という表現を不快に思う当事者もいるかもしれないとの意見について協議いただいた。事務局としては、埼玉県人権推進課に問い合わせた結果、「性の多様性への理解促進」という表記に変更することとした。
委員	第３次計画の指標は１８項目あったが、第４次計画では評価指標は８項目のみか。
事務局	第４次計画では、概ね、基本施策ごとに評価指標を設定することとした。
委員	評価指標「『男女共同参画推進センターふらっと』を知っている人の割合」の目標値を第３次計画の際と同様に５０％としているが、第３次計画の実績値を見ると数値が上がっていないように見受けられる。事務局としては、この結果をどのように捉えているか。
事務局	前回の会議でも指摘があったように、ふらっとの講座などの機会を使って周知を行うことは以前から実践していたが、実際に数値には反映されてこなかった。その他に、相談事業のカードを広く配布するなどの取り組みを行ってきたが、数値が伸びていないという結果を受け止め、一層PRに努めていかなければならないと考えている。
委員	違うやり方を考えないと効果が出ないと思う。
事務局	違った角度から周知を行っていきたい。第４次計画の最後にもふらっとの紹介を掲載しているが、例えば、現在も開催している男性の料理教室の回数を増やすことで男性の利用者を増やし、その方たちからさらに利用者を広げていけないかと考えている。
委員	第３次計画の指標７「市内小中学校における男女混合名簿使用校の割合」については、目標値２０％のところ、２９年度を除き２．１％と、ほとんど数値が伸びていない。この結果について、事務局から学校側に働きかけを行ったのか。それとも、働きかけをしても学校側との意識の違いで使用校の数が増えていないのか。
事務局	この件については、教育委員会と度々ヒアリングを行ってきた。教育委員会によると、第３次計画の成果指標の割合として回答しているのは、朝の出席簿について男女混合名簿を使用しているか否かとのことだった。この他に用途によって様々な名簿があり、そこでは男女混合名簿を使用している学

	校が多い。朝の出席簿を混合名簿としない理由については、緊急時に担任教諭以外が名簿を見ても男女の数が分かるようにすることを重視しているためとのことである。
委員	子どもの緊急性、安全性は何よりも代えがたいものである。朝の出席簿が男女別であるのは統計上の問題もあるが、緊急時に子どもを把握する上では非常に有効である。出席簿を基準としている成果指標の数値上では変わっていないように見えるが、実際の現場では様々な場面で男女混合名簿を利用している。
委員	結果として、指標7については、学校現場が変わっていないということではなく、指標としては男女共同参画の推進に関する現状を反映できないものであったという理解でよいか。
事務局	委員にお聞きするが、学校現場では、子どもは男女別の出席簿の影響として男女の性差を感じているような言動は見られるか。
委員	現在の学校現場では昔のように性別によって委員会やクラブ活動の男女別の人数を決めるなどもしておらず、子ども自身の希望によって選択させている。子どもたちも性差は感じていないのではないか。呼び名も、教員は子どもに対し、男女関係なく“さん付け”で呼ぶなど、男女平等意識の土壌づくりをしている。
議長	計画を策定する上では、学校現場が実践しているから問題ないというわけにはいかない。男女混合名簿の使用校の割合というのは、指標としてわかりやすいと思う。今後の課題として、事務局には、施策を考えていく中で、教育委員会に様々な働きかけを行ってほしい。
委員	基本目標Ⅰ、基本施策Ⅰ、具体的な施策（４）「性的マイノリティへの理解促進」が「性の多様性」に変更した点について、当事者は非常に複雑な環境にあるため、より広義な意味を持つ「性の多様性」を使用することは適切であると考えます。なお、10ページの「評価指標による計画の進捗度確認」に“「評価指標」の達成度と「事業目標」の達成度を関連付けて分析する”とあるが、具体的にどのように分析を行っていくのか。
事務局	分析の方法については、評価指標があり、関連事業についても事業目標を置く。評価指標、事業目標のいずれの数値も芳しくない場合は、担当課とヒアリングを行い、関連事業のさらなる充実を図っていく。また、評価指標の数値が芳しくな

	いけれども事業目標は達成されているような場合は、関連事業そのものの見直しが必要といったイメージである。基本的には少なくとも2年ごとを目途に分析を行っていく予定である。
議長	計画の中では、分析方法の記述がほとんどないため、検討したほうがよい。また、2年に1度の見直しというのは庁内の内規を準用しているのか、確認してもらいたい。長期間の計画なので、進捗状況の管理の方法を具体的に検討しておいてもらいたい。
委員	長い期間の計画なので、途中の修正は必要であると思われる。
委員	評価指標「就労している女性の正職員等である割合」の「等」とは何を指しているのか。また、目標値が最終的に60%というのは高すぎるのではないか。
事務局	「等」には団体職員や起業された自営業の方を含んでいる。目標値60%については、市民アンケートによる現状値が52.3%であることを踏まえると、少し高いかもしれないが、正職員を希望する女性が増え、少しずつ伸びていくことを想定して設定した。
議長	正社員の比率は働き方の質と密接な関わりがある。正社員以外の人が高齢になったときを考えると社会保障の話に繋がっていくので、市としては考えていかななくてはいけない。
委員	計画の進捗管理について、33ページの推進体制をもって進捗管理を行うと考えてよいか。
事務局	審議会も含めた推進体制の中で管理していくことになる。
委員	男女共同参画を推進していくためには、男女共同参画室だけではなく、それぞれの担当課が意識をもって事業を進めていくことが大切である。事務局は担当課に働きかけを行ってほしい。
事務局	推進本部は市長、副市長、上下水道管理者、部長級の職員が構成員であるため、それぞれの部署に男女共同参画の視点、意識付けを行っていくことが可能である。目標値が芳しくない場合は、積極的に推進本部や幹事会の活用をしていきたい。
事務局	推進本部から、計画の表紙に副題をつけてはとの意見があった。副題を付けることについてのご意見を伺いたい。
議長	第2次、第3次計画の際には副題はあったのか。
事務局	第3次計画にはない。埼玉県の基本計画にはある。他自治体の計画はまちまちである。

委員	男女共同参画に関心のない人にも、計画について関心を持ってもらうために、親しみやすい副題をつけたほうがよいのではないか。
委員	副題をつけることについては賛成だが、この会議で具体的なものを決めるのは難しい。副題をつけたほうがいいかについて諮ってもらいたい。
委員	計画自体が少し堅苦しいので、個人的にはわかりやすい副題があったほうがよい。
議長	副題については、付ける方向で考えていくこととする。具体的な副題の決定はパブリックコメントの実施後で差し支えないか。
事務局	パブリックコメントの実施後で差し支えない。
議長	他に意見、質問等はあるか。 計画の進捗状況の管理について、庁内だけでなく、情報を公開して外部の意見も取り入れたほうがよい。審議会自体も10年という長期間の計画にどのように関わっていくのか、今後検討していきたい。
議事（4）その他	
議長	議事（2）「その他」について、事務局から何かあれば説明願いたい。
事務局	次回の会議については1月を予定している。主な議題は計画の答申である。パブリックコメントの実施によって内容に修正があった場合は、12月中を目途に郵送で修正案を委員にお送りして、ご意見を伺った上で次回の会議を迎える予定である。引き続きお力添えをお願いしたい。
議長	今後、パブリックコメントの実施があるので、ご協力をお願いしたい。パブリックコメント実施を受けての変更事項については、次回の会議で審議したい。
議長	これで、本日の議事はすべて終了した。
閉 会	